

# 環境 みらい

2012

# 12



発行所

NPO法人環境みらい下関

〒751-0847 下関市古屋町一丁目18番1号

Tel (083) 252-7220

Fax (083) 252-7222

www.kankyo-mirai.jp

vol. 114

## contents

- 巻頭コラム「紅葉の旅」
- 12月のリサイクル教室のご案内
- お知らせ

## monthly column

### 紅葉の旅

NPO 法人環境みらい下関

理事 村尾孝子

1年が立つのは早いもので、秋も暮れて冷気も深まりあたたかい師走になった。駆け足で時が進むような気がして日々の大切さを痛感している。

先月JTB創立100周年特別企画、往復直行チャーター便で～にっぽんの元気な旅～錦秋の北豊北の旅に、私はある思いからこの旅に参加した。九州から東北へ行くバイ！応援キャンペーンの期間中で震災後観光が激変している中、九州から東北6県へ1人でも多くの旅行者が現地を訪問して東北の観光復興を応援するキャンペーン。

福岡空港を出発して青森上空付近にくると、眼下に広がる紅葉の山々に気分も高揚し心が弾んだ。やがて青森空港に到着すると「ようこそ青森へ」とミス・リンゴ、あおもり観光マスコットキャラクター「いくべえ」や関係者の方々からも歓迎を受けてとっても感激、これからの旅にどんなドラマがあるのか興味津々（NHK青森放送局が取材、歓迎のようすを夕方放映された。）

大自然が織りなすみちのくの紅葉めぐりに出発した。八甲田山麓を過ぎるとやがてナナカマドやカエデの紅色と、ダケカンバやブナの黄色の木々が燃えるような色に染められていて、視界いっぱいに秋色が広がる。特に八幡平アスピーテラインは絶景のドライブルートで、原生林や湖沼を彩る紅葉は一段と美しく感動の連続。そして木々が発するエネルギーで元気と活力をもらった。

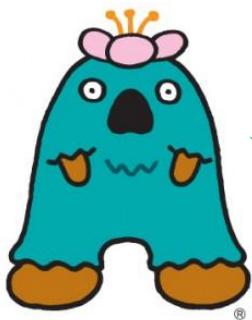


十和田八幡平国立公園銚子大滝



八幡平アスピーテラインより望む

この3日間好天に恵まれた上、ユーモアと経験豊かなガイドさんの話術に聞き惚れ、車内の雰囲気は笑いで場が和んだ。あっという間に時は過ぎたが、色彩鮮やかな紅葉をたっぷり満喫し、表情豊かな奥入瀬溪流の静寂に癒され、宿では満足したおもてなしを受け、名湯へゆっくり浸り、こだわりの郷土料理を堪能し、東北のお土産を両手に抱えて、いわて花巻空港から帰路に着いた。この3日間の紅葉の旅で、泊まる、食べる、買い物をするなど、地域とのふれあいで観光復興の力に少しは支援が出来たと思っている。



あおもり観光マスコット  
キャラクター

「いくべえ」

このたびの観光は、初日八甲田、奥入瀬、十和田湖エリア、2日目は八幡平アスピーテライン、田沢湖、角館エリアで3日目は中尊寺・金色堂の行程での旅。

曜日	日時	講座名 講師名	講座内容
火	4日 10～15時	組みひも 津森 美智子	古布及び毛糸などを利用して、帯締めや各種ヒモ類を作ります。 持参する物:参加料 400円・裂き布・毛糸など・昼食 定員:4名
	11日・18日 10～12時	着付け 津森 美智子	着物の着方、名古屋帯の着方。 持参する物:参加料 400円・着物・帯・その他小物 定員:10名(2日間参加できる方限定)
	11日・18日 13～15時	和服のリサイクル 芳川 妙子	着物や帯で袋物やベストを作ります。 持参する物:参加料 400円・ゆかた・着物・帯・裁縫道具 定員:10名(2日間参加できる方限定)
	11日 10～12時	廃食油で石けん作り 福井 和恵	廃食油を材料にして石けんを作ります。 持参する物:参加料 150円・エプロン 定員:20名
水	5日・19日 10～12時	布あそび 森田 芙路恵	古布で、今着たい服を作ります。 持参する物:参加料 400円・不用の布・裁縫道具 定員:15名
	19日 13～16時	古布でぞうり作り 佐藤 緑	持参する物:参加料 400円・30cmものさし・はさみ 洗濯バサミ 2個 綿で縦布(幅 10cm、長さ 60cm)40本 (幅 9cm、長さ 75cm)1本 (幅 2cm、長さ 35cm)4本 (幅 6cm、長さ 45cm)1本 定員:10名 12月21日と2日間できる方限定。
木	6日・20日 10～14時	古布で小物 永岡 ハツエ	古布で「季節の小物」を作ります。 持参する物:参加料400円(材料代別)・裁縫道具・手芸用ボンド・軽食 定員:10名(2日間参加できる方限定)
	13日・27日 10～12時	パッチワーク 小笠原 典子	ミニタペストリー・バッグ・小物などを作ります。 持参する物:参加料 400円・裁縫道具・材料のハギレ 定員:10名
	13日・20日 13～15時	毛糸で小物 内田 チズ子	最初はあまり毛糸でタワシを作ります。 持参する物:参加料 400円・中細くらいの毛糸・カギ針 4～5号 定員:10名
	13日・27日 13～16時	表具 森 宏司	掛け軸や色紙掛けを作ります。 持参する物:参加料 400円(材料代別) 定員:5名(2日間参加できる方限定)
金	21日 13～16時	古布でぞうり作り 佐藤 緑	19日の続きから編みます。 2日間参加できる方限定。
	14日 10～15時	裂き織り 小笠原 典子	木綿や絹の古着を裂いて、バッグ・インテリアグッズを作ります。 持参する物:参加料 600円・木綿や絹の古着・ハサミ・昼食 定員:8名 ※編み機持参者はこれ以上も可※参加料は同じです
	14日 10～15時	染色(草木染め) 新田 悦子	紫根染めをします 持参する物:参加料:2,000円・エプロン・お弁当 定員:6名
土	1日・15日 10～12時	布のリフォーム 高田 和代	古い着物や衣類を蘇らせ、自分だけの一着を作ります。 持参する物:参加料 400円・裁縫道具・解いた服や着物 定員:10名
日	9日・23日 10～12時	ガラス工芸 木下 照親	ガラスに砂を吹き付け削り、オリジナル絵柄作品を作ります。 持参する物:参加料:1回 400円・ガラス製のコップ・鉛筆 定員:10名

◎教室の申込み方法◎

12月1日(土)午前10時～電話受付を開始します

<申込みが少数の場合及び、講師の都合等により中止や延期になる場合がありますので、ご了承ください>

年末年始の休館日:12/28～1/4まで

## 下関市エコフェスタ講演会レポート

今年の10月14日のエコフェスタにて、「ごみゼロ社会の実現は、どこまで、どのように」をテーマに長崎大学環境科学部 中村修准教授を迎え講演会が開催されました。



中村先生は、経済や循環型社会の研究を、実際の現場に生かし、福岡県大木町の生ごみとし尿の資源循環利用システム「くるるん」を通じた地域づくりに積極的に携わってこられました。

### ごみ処理施設を迷惑施設ではなく地域づくりの拠点へ

大木町は福岡県南西部に位置する人口1万4千人程度の町で、平成18年より生ごみ・し尿処理施設「くるるん」を稼働しています。



驚く事に、その隣には「道の駅おおき」があり、農産物等の直売所「くるるん夢市場」、地産地消レストラン「デリ&ビッフェくるるん」が併設されています。

### 環をつなぐ地域社会システム



生ごみ・し尿・浄化槽汚泥を地域資源として循環活用するためには、地域循環を支える社会システムの確立が欠かせない。

「くるるん」に集められた生ごみ・し尿は、臭いの少ないメタン発酵で、液肥に資源化して家庭菜園や水田に提供されています。

特に、水田では、通常1㎡あたり1万円かかる化学肥料と比べ、散布代込みの500円〜1000円程度で利用出来るため、農家の引き合いも多く、しかも「くるるん夢市場」ではその液肥を使った農産物から売れていきます。

こうして作られた農産物はレストランや給食などで提供され、「環のめぐみ」として米のブランド化も行われています。

### ごみ分別を頑張った人が得をする仕組みづくり

さて、自治体では長年増え続けるごみの処理に悩まされてきました。特に、燃えるごみの約半分は生ごみで、分別をして資源化をすればごみの量をへらすことができます。大木町では、ゴミ袋中1枚 80円。これは処理にかかる費用が反映され、頑張って分別した人は費用が安く、分別しない人には費用を払ってもらうというシステムです。さらに、3ヶ月間分別を頑張った地区には温泉券がプレゼントされ、分別を頑張る地区住民へのご褒美も用意されています。

### なぜ、「液肥」なのか？

また、生ごみの資源化を堆肥ではなく、液肥にした事も成功の要因となりました。生ごみを固形の堆肥にして資源化に取り組む自治体もありますが、水分を抜く余分な行程が入るため、コストが高くなります。しかも、堆肥は畑で使用される他のメーカー品と競合し、資源化しても売れ残ってしまうのです。しかし、水田は堆肥ではなく化学肥料を使っているため、液肥の価格をこれよりも安く設定すれば、農家に使ってもらうことができます。

資源化さえすれば、後は売れると思うのは間違いで、再生品の需要や地域の特性への調査・理解が不可欠なのです。



(次ページへつづく)

## ごみの社会的価値を転換する

それでも町民から、し尿で作った堆肥で野菜を作ることに苦情が寄せられることもありました。そこで、中村先生は小学校で授業を行うようになりました。

「植物が育つのに必要なリン酸は雨が降るたびに海に流れてしまうが、山の木はどうやって育っているのか？」

小学生からは様々な答えが出されますが、正解は「鳥や鮭などの生物のフンや死骸によって山の上まで運ばれる」というもの。こうした授業や発表会を行う事で、3年目でクレームがなくなったといいます。



液肥自体は生ごみを機械的に処理した商品ですが、様々なプロセスを経て「農家が使って得をし、誇りを持つ肥料」へ「社会返還」を行うことで、単なるごみ処理にとどまらず、総合的な地域の資源循環へと、受け入れられて行くことができたのです。

## 肥料だけでなく、お金も循環

こうした大木町の取り組みによって、ごみの処理コストの大幅削減のみならず、町全体では、地域の雇用増加や、農産物の売上アップ・化学肥料の減少、そして地域の生ごみだけでなくお金も循環するという潮流が生まれています。循環による誰もが得をするシステムづくりの達成です。

### 関連施設での雇用確保

- ▶ 循環センターを運営する公社では、運転要員5名と事務職員1名を雇用している。
- ▶ レストランは、公募で選ばれた住民3名が出資者となり経営責任を負っている。町内含め近隣地域から11名を雇用している。
- ▶ 直売所に出荷者登録している農家は町内80名、近隣地域を含めると280名に上る。
- ▶ ビュッフェレストランの年間売り上げは1億円、直売所の年間売り上げは1.2億円程度。
- ▶ 循環センターの視察に訪れた町外客の半数はビュッフェレストランで食事を取っており、視察ビジネスとしても成果が上がっている

関連施設での雇用人員・売上		
施設	雇用	人数
循環センター	運転要員	5名
	事務職員	1名
レストラン	経営者	3名
	従業員	11名
直売所	パート従業員	6名
	出荷登録者	280名
施設	年間売上	来客数
循環センター	—	3,200名
レストラン	1億円	72,000名
	(うち視察者)	1,600名
直売所	1.2億円	108,000名

中村先生は最後に「循環型社会への取り組みは一人で頑張らない。なによりも、循環のしくみづくりが重要」であることを、語られました。「循環型社会をどのように、実現していくのか？」20年、30年先を見据えた活動に私たちの未来へのヒントが隠されています。

(記事 環境みらい下関 原田往子)

## ボランティアの募集をしています

今年度より、下関市生涯学習まちづくり「出前講座」に「207 環境教室」として「牛乳パックでハガキ作り(紙すき)、新聞紙などでエコバック作りを体験し、ごみの減量を考えます。」の内容で登録いたしました。

登録後、この講座に多くのお問い合わせ等(当法人に)頂いており、今後もご要望にお応えするためにも、一緒に活動頂けるボランティアの方の力が重要です。

ご希望の方は、NPO法人環境みらい下関(Tel.083-252-7220)へお問い合わせください。



## しものせき環境みらい館

は、「見て」「聞いて」「触れて」「楽しみながら」リサイクルの体験・学習ができます。



## しものせき環境みらい館ご利用案内

- 開館時間 10:00～17:00まで
  - 休館日 月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)
- サンデンバス停「垢田」「稗田中央」より徒歩 約5分  
 電話(083)252-7220 FAX(083)252-7222  
<http://www.kankyo-mirai.jp> eco@kankyo-mirai.jp

